

平成27年度第1回食育推進会議 議事録

1. 開催日時 平成27年9月2日（水）10:00～11:00

2. 開催場所 エルガーラホール7階 多目的ホール

3. 会議次第

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 開会</p> <p>(2) 議題</p> <ul style="list-style-type: none">・第3次福岡市食育推進計画の策定について（資料①を用い説明） <p>(3) 報告</p> <ul style="list-style-type: none">・第2次福岡市食育推進計画の評価について（資料②，③を用い説明） <p>(4) 閉会</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

4. 出席委員 18名

5. 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事内容

事務局	【議題：第3次福岡市食育推進計画の策定について】
事務局	【報告：第2次福岡市食育推進計画の評価について】
委員	第3次計画の策定にあたり、第2次計画についての総括をお聞きしたい。 例えば、こども達の朝食喫食の割合を見ても、成果という形で数字として結びつきにくい状況がある。国の第3次計画の中にも「特に若年層の食育への理解を深める」ということが盛り込まれているが、第2次計画までのやり方ではこども達に響いていないのではないかとの見方もできる。
事務局	一定の成果はあるものの、第2次計画の評価については、まだ途中経過の段階である。成果指標「小中学生の朝食を毎日食べる人の割合」を含め、これまでの評価の方法や目標設定のあり方についても再度洗い直し、評価

委員	<p>していきたい。</p> <p>「小中学生の朝食を毎日食べる人の割合」について、PTAでも様々な取組を行っており、当然上がっていると思っていたが逆に下がっていた。アンケートの取り方についても知りたい。</p>
委員	<p>小学校では2つの面から取組んでいる。1つは給食の先生・栄養教諭を中心とした食育に関する指導であり、もう1つは5、6年生の家庭科の時間である。学校では目標を持たせて学習を進めていくので一生懸命やっているが、学校でいくら学んでも家庭で活かすチャンスが少なくなってきたと感じる。</p>
委員	<p>「早寝早起き朝ごはん」について、中学生は受験生を含め形骸化しているところがあるが、SNSの問題と併せてPTAと一緒に取り組んでいるところである。学習指導要領では、食育は家庭科で担うことになっており、授業の中になんかしっかり入れている。食育に関する取組は行っており、子ども達の意欲・関心も上がっていると思うので、朝食喫食の割合が下がっていることについて、もう少し原因を探る必要があると思う。</p>
委員	<p>「小中学生の朝食を毎日食べる人の割合」について、調査の方法を知りたい。</p>
事務局	<p>調査の方法については、抜き取りである。小学校については、栄養教諭が配置されている55校、2～6年生を対象に各学年1,500名程度、合計8,000名程度にアンケートを実施。中学校については、20校、1～3年生を対象に各学年600名程度、合計2,000名を対象にアンケートを実施しており、統計としては十分な数字である。アンケートでは、朝食の喫食状況だけでなく、就寝・起床時刻や睡眠時間等の調査も行っているが、それらは改善している。しかし、それが朝食の喫食に繋がらないという点についての分析は難しいが、欠食については、「食べる時間がない」「食欲がない」の2つが大きな理由となっている。なぜ食べる時間がないのか、食欲がないのかといった内容までは把握できていないので、第3次計画でアンケートの取り方等工夫する必要があると考える。</p>
委員	<p>実際どうしてなのかという原因が明確にならないと、その対策にならない。第3次計画ではKPIの設定自体が間違えていると成果につながらないので、しっかり分析を行った上で、食育の大切さについて、子ども達により響くような工夫や取組にチャレンジしてほしい。</p>

委員	食育はずっと続けていかなければならないことであり、教育が大事である。福岡県の野菜の消費量は全国でも低く、福岡市だけで見ればさらに低いものと思われる。第3次、第4次といったことではなく、恒常的な取組として行っていただきたい。
委員	ただ2次、3次計画ということではなく、改善のタイミングと捉えて、良い計画とアクションにしていけるよう事務局も力添えをお願いしたい。
委員	福岡市の役割について教えてほしい。また、「福岡市の農林水産業を守り育てていくべき市民の割合」について、どういったところが、どのような事業を行っているのか尋ねたい。
事務局	市内産農水産物の学校給食活用については、農林水産局としても進めており、中でも活用協議会を通して市内産の給食の割合を高める努力をしている。また、小学校では、学校内で子ども達が野菜を作り収穫体験をするという学校菜園事業を行っており、年間で平均8校程度実施している。産地見学については、親と子、一般の方をあわせ年間で8回実施しており、産地見学後に料理教室を実施し、市内産の野菜が安心・安全で新鮮であることを体験的に知ってもらう事業となっている。
委員	「福岡市の農林水産業を守り育てていくべきと思う市民の割合」について、このままの文言で質問しているのか。それともそのような項目があるのか。
事務局	市民の意識調査の中の一つの項目であり、具体的な項目ではなく全体的に「農林水産業を守り育てていくべき」という質問項目になっていると記憶している。
委員	「農水産物を守る＝環境を守る」という視点で聞いているのか、地産地消で近い所でできた方がよいという話なのか、安心・安全の市内産を増やした方がよいということなのかなど、どの視点で答えたらよいのかと思う。要するに、何が聞きたいのか、どのポイントを知りたいのかなど、より分かりやすい形での成果指標となるよう工夫してほしい。
事務局	もう1つの質問の「行政の役割」としては、区の保健福祉センターを含め、各関係部局が事務局として様々な検討を行いつつ、会議の構成団体の皆様とも連携を取りながら、市民の方への啓発や具体的な事業としての地域での教室や講座などの実施を通じて、啓発を進めているところである。

委員	<p>学校給食の市内産農水産物利用割合について、野菜の目標値 15%が達成できていないのはなぜか。食材を使う使わないというのは普通、達成できるものではないのか。学校給食公社にこのような計画が伝わっていなかったのか、あるいは、そもそも市内産だけでは給食の食材がカバーできないのか、理由について尋ねたい。</p>
事務局	<p>物資調達については、教育委員会から学校給食公社にできるだけ市内産を使うよう指示しており、それに基づき調達している。また、JA などとも協議しながら毎月検討を重ねており、実際に割合はかなり上がってきている。ただ、市内産では生産量が十分でないものも多く、また市内産の方が金額的にも高いため、入札の結果として全量を市内産の物でまかなうことができないなどの理由から、目標値に達していない状況である。</p>
事務局	<p>JA や学校給食公社、教育委員会、農林水産局などの関係者で、学校給食活用協議会のワーキンググループを設置し、市内産を提供できるものについてはすべて出している。しかし、小学校 8 万食、中学校 4 万食の計 12 万食を用意する上で、生産量と同一規格、同一品質を同時に提供するのは難しいという面もある。玉ねぎ、人参、じゃがいもは、献立の中で多く使われるが、福岡の土地の特性からじゃがいもや人参は栽培しにくい。重量野菜の 3 つの代表である玉ねぎを除いてなかなか市内産を提供できないことも、重量ベースで出している成果指標の割合が高まらない要因の 1 つである。小学校の市内産野菜の使用割合は 18.3%ほど、中学校は 2.2%ということで、平均すると 15%にはなっている。</p>
委員	<p>第 3 次計画で目標数値を決めると思うが、野菜の 15%というのが実際に過去 5 年取組んでみてどうだったのかを検証し、現実的な目標でなければ再検討いただきたい。米はもっと供給ができるなら目標値を上げてもよいのではないか。野菜は現実的に無理であれば目標値を下げてもよいのではないか。</p>
事務局	<p>指標については、第 3 次計画においてしっかりと検討させていただく。</p>
委員	<p>市内産で学校給食をまかなうのは非常に困難。市内産米は供給できる余裕はあるが、野菜については、ロットが揃った形で市場に出せるのは 10 品目程度しかない。5 月、6 月は市内産玉ねぎ 100%を目標に学校給食に出したが、1 日 2 トンの量を供給しなければならず、100%カバーできなかったこともある。玉ねぎは福岡では 4 月から 6 月の間しかとれず、キャベツにつ</p>

	<p>いても供給できる期間はそのシーズンだけである。また、人参やジャガイモについては、福岡のように農地面積の少ない所では収支が合わないため農家は取り組まない。これが現実ではあるが、今後も数字を伸ばせるよう農家の方にも訴えていきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>朝食は用意がされているのか、用意はされているが時間がないから食べないのかなどについて知りたい。また、朝食の内容について、バナナ1本でも朝食を食べたことになるのか。主菜と副菜をとらないと朝食にならないのかなど、何を食べているのかも聞いてみたい。目標値の設定について、100%は高すぎるように思う。第3次計画では、目標値の設定が非常に重要である。</p>
<p>事務局</p>	<p>第3次計画の中では、目標値とアンケートについてもしっかり議論して練っていききたい。</p> <p style="text-align: right;">(議事終了)</p>